

令和6年度埼玉県体験活動推進協議会

加須げんきプラザ
モデル事業

協力校

埼玉県立上尾かしの木特別支援学校



学習の流れ

【事前学習】

- 学習活動の把握
- 知識・技能の習得

宿泊学習の概要やきまり

宿泊学習の「しおりづくり」

宿泊に向けて「入浴学習」

野外炊事に向けて「調理実習」

【体験学習(当日)】

- 学習したことの実践

加須未来館で「プラネタリウム鑑賞」

「人間関係づくりプログラム」を体験

「野外炊事」を体験

「手打ちうどんづくり」を体験

【事後学習】

- 実践の振り返り
- 知識・技能の深化

体験学習の様子を写真等で振り返り、活動を通して学んだことを確認

体験学習を通して学んだことを生かして「調理実習」

事前準備 改善の視点

～第1回体験活動推進協議会のご意見を受けて～

- ① 基礎的環境整備
- ② 体験活動のUD化・合理的配慮
- ③ 人間関係づくりプログラムの検討
- ④ 生徒の実態・特性の把握
- ⑤ 指導案の再検討

体験活動について

加須げんきプラザで

提供している

7つの体験活動の中から

1日目

「人間関係づくりプログラム」

「野外炊事体験」

2日目

「手打ちうどんづくり体験」



①手打ちうどんづくり体験

加須名物のうどんの打ち方を指導します。
粉からつくる、本格的な手打ちうどんです。



③野外炊事体験

火おこしを行い、飯ごうを使ったお米の炊き方を指導します。カレーライスやおにぎりを作ります。



⑤スマホ講座

スマートフォンやゲーム機など、情報機器とのより良い関係について学ぶことができます。（主に学校利用となります。）
※⑤は出前で行います。

⑥ウォークラリー

コース図を使い、課題を解きながらタイムと得点を競います。

⑦地域フォト巡り

写真と同じポイントを地図を見ながら探して巡ります。



②ドラム缶オープンでピザづくり体験

粉からピザ生地をつくる方法を指導します。
トッピングを行い、ドラム缶オープンで焼き上げます。
※出前の場合、ドラム缶は職員が持ち込みます。



④人間関係づくりプログラム

アクティビティやレクリエーションを通じたプログラムを実施します。



※②③は加須げんきプラザ周辺で実施するため、出前は行ってまいります。

人間関係づくりプログラムについて

担当職員の事前学校訪問

6月24日(月)に事前学校訪問，音楽の授業を参観
(宿泊学習に参加する生徒がそろっている授業)

- **であいプログラム** ダンス発表
- **ふれあいプログラム** ボール運び列車
- **たかめあいプログラム** バゲットボール

人間関係づくりプログラムの検討 であいプログラム ダンス発表

ねらい・効果

仲間と活動することの良さの再確認

思い出に残っている，協力して取組んだ

体育祭のダンス発表を再び行い

仲間と活動することの良さの再確認をさせる

人間関係づくりプログラムの検討

ふれあいプログラム ボール運び列車

ねらい・効果

リーダー・フォロワーの
役割について考える

個人の能力・特性に応じて
ボールの種類を選択可能

人間関係づくりプログラムの検討

たかめあいプログラム バゲットボール

ねらい・効果

対話による課題解決

比較的安全に実施できる

個人の能力・特性に応じて

参加が可能

先生方のアンケートから① (人間関係づくりプログラム)

- ▶ バケットボール，ボール運びリレーは生徒の実態に合った内容であったと思う。バケットボールでは，大きいボールから小さいボールへと段階が踏まれていたので取り組みやすかった。ただ活動時間が少し短かったので，もう少し長くなればさらに充実した時間になったと思います。ですが，この人間関係プログラムを通して，さらに仲が深まったのではと感じます。

先生方のアンケートから② (人間関係づくりプログラム)

- ▶ 生徒同士の関わりを深められる良い機会になった。普段の学校生活とは違う環境の中でも、互いに協力し合い、一つの目標に向かって行動できることは、今後の社会生活に生きる力になると感じた。難しい課題ではなく、生徒の実態に合わせてゲーム感覚で楽しみながら取り組めたことも良かった。
- ▶ 対話的な活動のできるゆったりとした時間配分であると良かった。

先生方のアンケートから③ (人間関係づくりプログラム)

- ▶ 友達と協力し達成感や楽しいという気持ちを共有することができ良い思い出となりました。
- ▶ 新しい環境に生徒が混乱してしまい、事前学習通りに取り組むことができませんでした。ただ、それまでの教員や友達とのやり取りの中で、人間関係を深めようという取り組みの大切さは生徒にも伝わっていたように思います。

野外炊事体験について

体験活動のUD化・合理的配慮

- 測れるまな板，縦型ピーラーを準備
使いやすさ，安全性に配慮した用具



先生方のアンケートから① (野外炊事体験)

- ▶ グループごとに活動場所を整えることができ取り組みやすかった。食材を切るための用具の工夫や、屋外かまどづくり（天候不順のなか体験することができた）など、教師と職員が連絡を取り合い準備することができた。特に、火を使う経験は子供たちにとって新鮮だったようで、恐る恐る薪をくべたり、火にかかった鍋にお米を入れる体験は貴重だったと感じました。

先生方のアンケートから② (野外炊事体験)

- ▶ 活動の流れがわかるような視覚的な資料やマニュアルがあると分かりやすいと感じます。
炊事について，かまどの作り方，米の調理の進め方，食器の洗い方など)
- ▶ 施設内の写真や野外炊事場の写真がHPに掲載してあると，事前学習で活用し生徒達も見通しをもって活動できるのではないかと思う。

手打ちうどんづくり体験について

体験活動のUD化・合理的配慮

● 手打ちうどん体験の 手順書の作成

- ⇒ 事前学習で活用
- ⇒ 拡大した掛図を作成
体験時に活用

てうち うどん の つくりかた



①みずまわし



②あらこね



③ふみ



④ねかし



⑤のし(まるく)



⑥のし(しかく)



⑦のし(まきつけ)



⑧たたみ



⑨きる



⑩ゆでる



⑪しめる



⑫もりつけ

先生方のアンケートから (手打ちうどんづくり体験)

- ▶ 個別の活動であったが、それぞれの生徒が「自分のうどんをつくる」というイメージをもちながら活動に主体的に参加できていたと感じる。作業や自分がやるべきことを想像し、落ち着いて活動できていたと思う。
- ▶ 自分で打ったうどんの美味しさは格別だったと思う。料理してもらったありがたさを感じた生徒もいたと思う。
- ▶ 活動の様子動画資料があると生徒がイメージしやすいと思う。

館内掲示のUD化

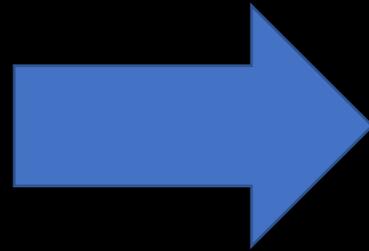
基礎的環境整備

- 案内表示のルビ付け
- 施設内の動線・危険箇所の表示
- 用具・備品の片づけ方などの表示

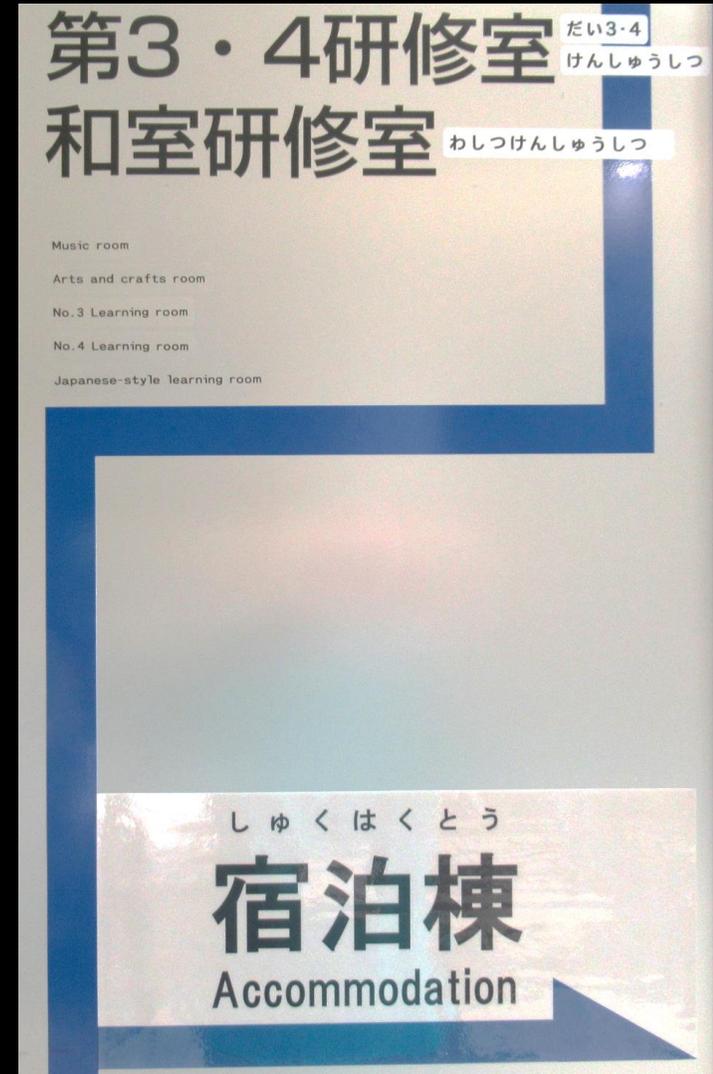
<案内表示のルビ付け>

管理棟1階 案内板

before



after



- 上にひらがなルビ
- 下に英語表記
- 下のスペースに
宿泊棟 →
Accommodation

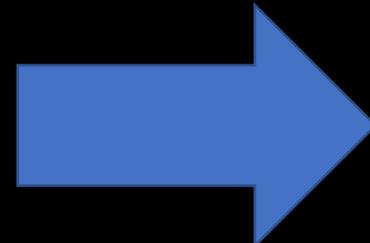
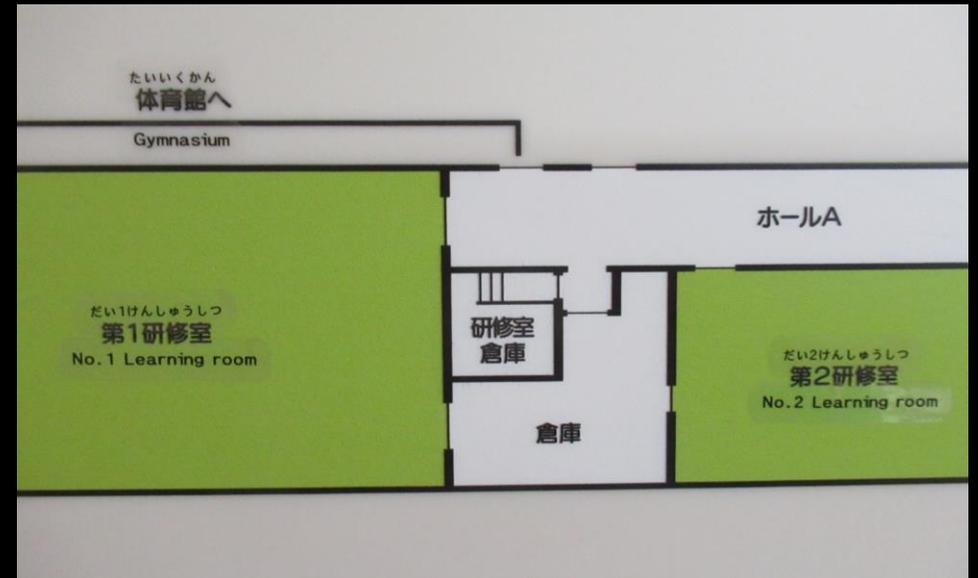
<案内表示のルビ付け>

before



宿泊棟1階 案内板

after

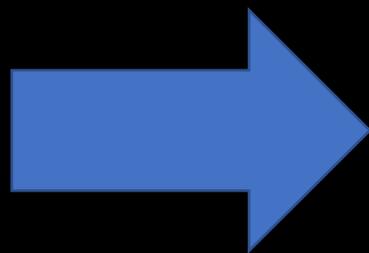


- ・上にひらがなルビ
- ・下に英語表記

<案内表示>

宿泊棟 各宿泊室

before



after



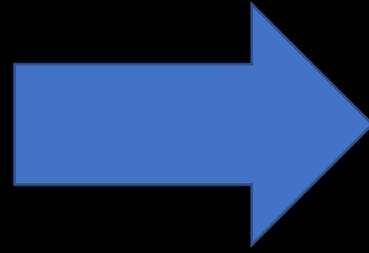
- ・部屋表示が扉にしかなく、開いているときに確認しづらいため、上部に表示する

<案内表示>

宿泊棟1階 食堂

before

after



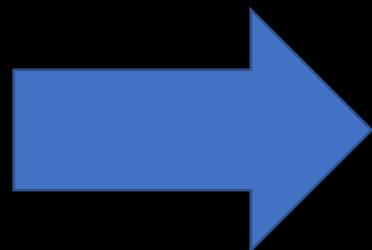
- 扉の開き方が
わかりやすく
なるようにする



<案内表示・動線表示>

屋外

before



- 野外炊事場,
運動広場へ案内
する掲示

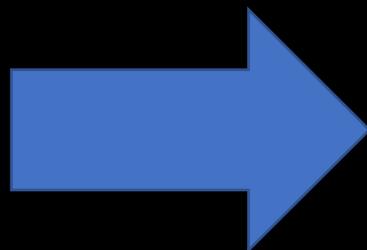
after



<危険箇所表示>

宿泊棟 障がい者用浴室

before



after



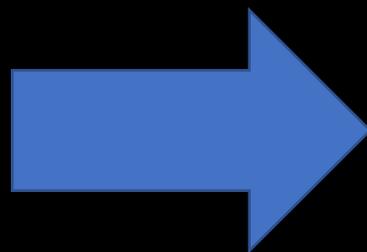
- ・入室の際に段差があるため「頭上注意」の表示（主に介助者に対する注意喚起）

<危険箇所対応>

宿泊棟1階 入口

before

after



- ・角がある箇所に
緩衝材をつける



先生方のアンケートから① (宿泊体験学習全体)

- ▶ 生徒の実態を指導者側が把握することがとても大切だと思う。その上でそれを活かした案を作成し、事前学習で練習しながら取り組むとよいと思う。今回、施設職員が実態把握のために事前に来校したことはよい取り組みだと思う。生徒たちの安心感にもつながった。
- ▶ 生徒の実態によって異なるが、各活動においてそれぞれの目標をたて学習を重ねたので、事前学習も含め学びはあったと思う。今後、この経験が実生活に汎化されていくとよいと思う。

先生方のアンケートから② (宿泊体験学習全体)

- ▶ 実施にあたり、職員と教師の打合せを通して指導案（概要や学習展開等）を作成し、わかりやすいイメージを整えることができた。体験や学びの効果をさらに高めるために、以下の改善点を考えた。
 - 教材や教具などを事前に具体的に提示してもらえる（一緒に考える）とより深めやすいのではないか。
 - 実際のイメージをもつための具体例（体験活動例や学習例「●●●をする活動」「○○な場面で生かせる」など）を提示してもらえるとう学習設定がしやすいのではないか。

先生方のアンケートから③ (宿泊体験学習全体)

- ▶ 体験プログラムの内容と各教科で扱う目標や内容等を照らし合わせた資料があると、各教科のどの単元と結び付けられるか、どのようなねらいがあるのか整理しやすい。
- ▶ 他の学校での実践例が多くあると、学校ごとに生徒に合わせた適切な活動内容を設定することができる。
- ▶ 出前授業や、動画教材を用いた事前学習等、生徒たちが体験的に学習することができる機会を設定できると、さらに見通しをもって取り組めると思う。

成果と課題

【成果】

- 担当職員が事前学校訪問をすることで、実態把握のみならず、生徒たちの安心感にもつながった。
- 施設と学校で十分な打合せを行うことで、生徒の実態に応じた効果的な体験活動を計画することができた。

成果と課題

【課題】

- ▲ 生徒の特性，発達段階に応じた体験活動のメニューを提供することができるよう，積極的に開発していく必要がある。
- ▲ 教育課程に組み込むためにも，実施するねらいや効果を明確にするための資料を提供すると，学校が導入しやすくなる。
- ▲ 動画資料を活用することで，視覚的に見通しをもつことができ，生徒の意欲を向上させたり主体的に参加できるようにする。

ご清聴ありがとうございました